

喬木村誌 目次

次

第四章 地図 絵

地図

第一編 自然

第一章 位置・面積

第一節 位置 三

第二節 面積 五

第二章 地形・地質

第一節 飯田盆地の地形形成 七

1 山系の形成

七

3 段丘の形成 九

4 段丘の分類

2 飯田盆地の形成 八

第二節 村の地形概説	一二
第三節 村の地質	一八
1 基盤岩	一八
2 伊那層	一八
3 天竜層	一〇
4 ローム層	一〇
第四節 村の地形区分	一一
1 山 地	一三
2 段丘地	一三
高位段丘、中位段丘	一三
下位段丘、低位段丘	一三
第五節 地学景観	一七
1 球状花崗岩	二七
2 九十九谷	二八
3 天竜川・小川川及加々須川	三〇
4 鉱 泉	三一

第三章 気 象

第一節 気候概説	三三
第二節 気温	三三
第三節 降水量	三四
第四節 降 雪	三四
第五節 風	三七
第六節 霧	三七
第七節 霜	三七
第八節 日照と湿度	三九

第四章 植 物

第一節 植物の分布	四〇
1 天竜川河畔の植物	四〇
2 段丘地帯の植物	四五
3 富田沢川流域の植物	四五
4 小川川流域の植物	四八
5 加々須川流域の植物	五九

第二節 大木・巨木 六六

1 阿島区の大木(交) 2 小川区の大木(交)

3 伊久間区の大木(交) 4 富田区の大木(充)

5 大和知区の大木(七) 6 氏乘区の大木(七)

7 大島区の大木(七) 8 加々須区の大木(七)

9 附記(樹令、年輪)(七)

第三節 植物と人生 七三

第四節 村内植物目録

1 シダ植物 七六

2 種子植物 七七

第五章 動 物

第一節 背椎動物 八六

1 哺乳類 八六

2 鳥類 九〇

3 爬虫類 九六

4 両棲類 九七

5 魚類 九九

第二節 節足動物 一〇六

1 昆虫類 一〇六

2 蜘蛛類 一〇九

第三節 軟体動物 一一〇

1 陸上貝類 一一〇

第二編 考古編

序 章

第一章 原始時代の喬木

第一節 喬木村遺跡の概観	一一五
第二節 喬木村の考古学調査	一一三
1 鳥居竜藏氏の現地調査	一一四
2 阿島式土器の設定	一一五
3 下伊那史第二・第三巻編纂に伴う調査	一二七
4 伊久間原住居址の発掘調査	一二七
5 飯田風越高校伊久間総合調査	一二八
6 阿島五反田遺跡の発掘調査	一二八
7 新産都市等開発地域内緊急分布調査	一二九
8 帰牛原・中原・南原遺跡の発掘調査	一三〇
9 帰牛原・南原遺跡の発掘調査	一三〇
10 阿島郭遺跡の発掘調査	一三〇
11 帰牛原・城本屋遺跡の発掘調査	一三〇
12 その他の調査	一三一

第二章 先土器時代の喬木

第一節 旧石器時代の概観	一三一
--------------	-----

第二章 繩文時代の喬木

第一節 繩文時代の概観	一三四
-------------	-----

第二節 繩文時代の喬木	一三三
-------------	-----

草創期(三五)

早期(二三)

後期(四四)

晚期(四五)

前期(三三)

中期(三四)

後期(四五)

第四章 弥生時代の喬木

波及期(四四) 中期(四五) 後期(五六)

- 第一節 弥生時代の概観 一四五
第二節 弥生時代の喬木 一四五

- 第三節 集落立地の変化と農耕生活の展開 一五四

第五章 古墳時代の喬木

波及期(四五) 中期(五六) 後期(五六)

- 第一節 古墳時代の概観 一五六

- 第二節 喬木村の古墳 一五七

- 1 宮沢古墳(小円山) 一六三

- 2 郭第一号墳(築山古墳) 一六三

- 3 郭第二号墳 一六六

- 4 郭第三号墳 一六六

- 5 郭第五号墳 一六六

- 6 町古墳 一六八

- 7 杉立古墳 一六九

- 8 大塚古墳(里原一号墳) 一六九

- 9 藤塚古墳(中原第二号墳) 一六九

- 10 正覚塚 一七一

- 第三節 喬木村の古墳時代の集落址 一七三

- 1 阿島五反田遺跡 一七五

- 2 阿島南鍛冶垣外地籍 一七五

- 3 小川馬場平遺跡 一七六

- 4 伊久間小川川尻地籍 一七六

- 5 帰牛原遺跡 一七六

六 伊久間原遺跡（一号と十三号住居跡）……………一七八

7 富田地の神遺跡……………一九二

第四節 古墳時代の集落と生活の進展……………一九二

第六章 古墳時代以後の喬木……………一九四

第一節 古墳時代以後の概観……………	一九四
第二節 古墳時代以後の喬木……………	一九六
1 平安時代の遺物……………	一九六
2 鎌倉・室町時代以降の遺物……………	一九六
3 小川さがり窯跡……………	一九八
4 富田焼窯跡……………	一九八
5 小川高越出土の古錢……………	二〇〇

上 桐島寺古墳群

中 桐木村古墳群

下 桐木村古墳群

左 桐木村古墳群

右 桐木村古墳群

上 桐木村古墳群

中 桐木村古墳群

右 桐木村古墳群

左 桐木村古墳群

中 桐木村古墳群

右 桐木村古墳群

左 桐木村古墳群

中 桐木村古墳群

右 桐木村古墳群

左 桐木村古墳群

中 桐木村古墳群

右 桐木村古墳群

第一章 古墳時代の喬木……………一九五

第二章 奈良時代の喬木……………一九四

第三章 飛鳥・白川の喬木……………一九四

第四章 丹波・播磨の喬木……………一九四

第三編 古代・中世社会

二〇七

第一章 奈良時代及それ以前

二〇七

第一節 国譲り神話

二〇七

1 出雲族勢力の波及

二〇七

2 建御名方命一族の信濃開拓

二〇八

第三節 大化前代における古代社会

二〇八

1 四道將軍

二一〇

2 日本武尊伊那通過

二一〇

3 分道分国

二一一

第四節 大化革新

二一二

第五節 奈良時代の社会と文化

二二八

1 律令政治の充実と奈良朝文化

二二八

2 中央文化の東国波及と伊那郡

二二九

3 東山道と伴野郷

二三〇

4 産物の進献

二三一

第二章 平安時代

二三三

第一節 坂上田村麻呂の伊那郡通過

二三三

第二節 伝教大師の東国巡回と御坂

二三三

第三節 東山道と伊那の駅路

二三四

第四節 伊那の旧社寺

二三六

1 仏教の地方弘通と伊那路

二三六

2 神社

二三七

第五節 牧	一二七
第六節 産物の進献	一二九
第七節 莊園の発達	一三一
1 班田制の崩壊	一三二
2 莊園と支配関係	一三三
3 武士の起り	一三三
第三章 鎌倉時代	一三六
第一節 中世伴野庄	一三六
第二節 伴野庄の地頭	一三七
第三節 鎌倉時代の知久氏	一三八
1 知久氏の出自	一三八
2 知久氏の諏訪神社崇敬	一四六
3 知久敦俊の伴野庄移居	一五二
4 知久信貞・敦幸の事蹟	一五四
5 禪僧無学祖先と知久敦幸	一五五
第四章 室町時代	一五八
第一節 南北朝の対立と知久氏	一五八
1 大河原における宗良親王	一五八
2 知久敦貞	一六〇
3 大塔・結城の両戦	一六一
第二節 知久氏出自の高僧	一六三
1 伯元清禅	一六四
第三節 諏訪上社御頭役勤仕	一七一
1 知久氏の神使御頭勤仕	一七〇
2 阿島郷の勤仕	一七一
第八節 南信濃における諸族	一三三
1 諏訪氏と金刺氏	一三四
2 伊那郡定住諏訪諸族	一三四
3 南信濃源氏	一三五
4 南信濃三大族	一三五
4 下伊那における莊園	一三九

第四節 文永寺の結縁灌頂 二七五

1 知久・伊久間・小河氏等の列座 二七五

2 厳助法印一行と小川渡 二七七

第五節 神之峰城と出城 二七九

1 神之峰城と知久氏 二八〇

2 小川の松下城と羽生氏 二八三

3 伊久間城と林氏 二八五

4 富田城と塩沢氏 二八八

5 加々須の茶臼山砦 二九一

6 阿島城原城址 二九三

7 氏乗城山城址 二九五

第五節 石垣城の開拓と大手道今一更城 三三八

1 石垣城の開拓と大手道今一更城 三三八

2 大手道今一更城と石垣城 三三九

第六節 甲斐守義定と御坂谷城 三四〇

1 甲斐守義定と御坂谷城 三四〇

2 御坂谷城と甲斐守義定 三四一

3 甲斐守義定と御坂谷城 三四二

4 甲斐守義定と御坂谷城 三四三

5 甲斐守義定と御坂谷城 三四四

6 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

7 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

8 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

9 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

10 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

11 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

12 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

13 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

14 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

15 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

16 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

17 甲斐守義定と御坂谷城 三四五

第四編 近世社会

一〇

第一章 戰国時代

二九九

第一節 知久頼康安養寺堂舎を造立

三〇一

第二節 武田信玄の伊那侵攻

三〇三

第三節 神峰落城とその前後

三〇三

第四節 大島城修築

三〇六

第五節 小川郷内堤防修築

三〇九

第六節 武田勝頼寄進状

三一〇

第七節 韓郷神社の絵馬

三一二

第八節 織田氏の攻略と信長死後の混乱

三一四

第九節 知久頼氏故地復帰

三一四

第一章 江戸時代の支配関係

三一八

第一節 大名旗本の復帰

三一九

第二節 地方統治の体制と喬木

三二〇

第三節 阿島村(旗本領)

三二一

第四節 小川村(天領・旗本領)

三二二

第一節 天領千村氏預

三二三

第二節 天領宮崎氏預

三二四

第三節 近藤領

三二五

第四節 伊久間村(天領・私領)

三二七

1 小笠原氏・脇坂氏・天領・高須藩	三三七
2 高須松平領竹佐陣屋	三三八
3 天和元年(一六八一)～慶應三年(一八六七)	
高須藩竹佐代官所代官名	三四一
第五節 富田村(天領・旗本領)	三四五
第六節 加々須村	三五〇
第三章 阿島における知久氏代々	
第一節 知久氏の復帰	三五一
第二節 知久家の代々	三五三
第四章 土地制度と貢租・課役	
第一節 檢地	三七九
1 檢地の沿革	三七九
(1) 檢地の方法	三八〇
(2) 土地の種類と品等	三八〇
(3) 石盛、石高の決定	三八〇
(4) 貫高と永高	三八一
(5) 各村の古検地高	三八一
2 阿島村の検地	三八三
3 小川村の検地	三八六
4 伊久間村の検地	三九二

1 幕府領千村預	三四五
2 幕府領飯島陣屋	三四五
3 飯島代官交替表	三四六
第五節 加々須村	
第一節 貢租	三七九
5 富田村の検地	三九五
6 加々須村の検地	三九八
第六節 加々須村	
第一節 貢租	四〇一
1 貢租の種類	四〇一
(1) 稅目	四〇一
(2) 正税	四〇一
(3) 雜税	四〇一
(4) 運上・冥加・臨時御用金	四〇一
2 貢租の税率・方法・用語・其他	四〇二
(1) 税率	四〇二

(2) 定免法・検見法	四〇一
(3) 除説地	四〇二
(4) 過重の年貢と土地移動	四〇三
3 旗本領の貢租	四〇五
4 天領の貢租	四〇九
第五章 村の制度	
第一節 村の定書と村役	四六一
2 諸法度	四六二
3 耕地規定	四六四
第二節 村役人	四六八
第六章 戸口・人口	
第一節 人口動態	四八六
第二節 宗門改帳・家並帳	四八九
第三節 人口構成	四九三
第四節 家族構成	五〇二
第五節 婚姻	五〇九
第七章 村貫・村伝馬	
第一節 阿島村の村貫	五一二
第二節 伊久間村の村貫	五一五
5 私領(大名領)の貢租	五
第三節 課役	四二六
第四節 助郷	四三四
第五節 幕府巡見使通行	四四二
第六節 村明細帳	四五三

第三節	小川村の村貢	五七
第四節	富田村の村貢	五一二
第六節	村伝馬	五四四

第八章 用水路と川除

第一節 用水路

小川村の川除	五四二
--------	-----

1 阿島の用水	五一六
---------	-----

(1) 五反田井	五一六
----------	-----

(2) 御用水	五一七
---------	-----

(3) 花立井	五一八
---------	-----

(4) 帰牛原の溜池・用水路	五一九
----------------	-----

2 小川の用水	五二一
---------	-----

第二節 天竜川の洪水と川除

阿島村の川除	五三九
--------	-----

1 阿島村の川除	五三九
----------	-----

第九章 林野と入会

第一節 村の森林資源

小川村の川除	五四二
--------	-----

1 入会林野と農民	五六一
-----------	-----

2 入会地	五六二
-------	-----

1 入会林野と農民	五六一
-----------	-----

2 入会地	五六二
-------	-----

第二節 入会権の発生

1 入会林野と農民	五六一
-----------	-----

2 権の品等・価格	五六四
-----------	-----

3 権奉行	五六五
-------	-----

4 権の渡入	五六七
--------	-----

第三節 権木

1 権木の起源	五六三
---------	-----

2 権木の品等・価格	五六四
------------	-----

3 権木奉行	五六五
--------	-----

4 権木の渡入	五六七
---------	-----

第四節 文禄五年の入会裁許状

文禄五年の入会裁許状	五七〇
------------	-----

第五節 加々須村の村貢	五三三
-------------	-----

第五節 貞享の伴野山・沢山論争……………五七二

第六節 江戸中期以前の入会論争……………五七三

1 正保年間伊久間村と小川村との山論……………五七三

2 山手大豆の取極……………五七六

第七節 小川山内の沢山御林山の成立……………五七九

第八節 江戸末期の博木山……………五八八

1 博木・材木の搬出量の減少……………五八八

2 伐木制限と御林での盗伐……………五九一

3 富田村と小川村との山論……………五九八

第一〇章 交 通……………六〇三

第一節 伊那郡の街道……………六〇三

第二節 村の古道……………六〇三

第三節 関 所……………六〇三

1 伊那における関所及番所……………六〇六

2 関所番人……………六〇八

3 関所における取調べ……………六一〇

4 波合関所……………六一一

5 帯川関所……………六一五

6 心川関所……………六一七

7 小野川関所……………六一八

第四節 天竜川の渡船……………六一〇

1 伊久間の渡……………六一〇

2 小川の渡……………六一四

3 阿島の渡……………六一七

第一章 凶作・貯穀倉……………六三一

第一節 災害と郷倉……………六三一

第二節 享保の飢饉……………六三七

第三節 天明の飢饉……………六三九

第四節 天保の飢饉……………六四一

第二二章 産業

六四八

第一節 農業	六四八	3 富田万石	六七三
1 耕地	六四八	4 富田焼	六七三
2 農業技術・肥料	六四八	5 紙すき	六七三
3 稻作	六四九	6 伊久間莫蘿	六七六
4 烟作	六五〇	第三節 あゆ漁	六七六
5 養蚕	六五二	第四節 林業	六七八
6 柿	六五九	1 林產物	六七八
7 竹	六六一	2 樹木	六八〇
8 桐・漆	六六五	3 御用木	六八二
第二節 手工業	六六六	第五節 酒造業	六八三
1 阿島傘	六六六	第六節 講	六八五
2 富田絹	六七二	1 無尽	六八五
第三節 幕末の阿島騒動	六八八		
第一節 農民生活の窮乏	六八八		
第二節 延宝の阿島騒動	六九〇		

第一三章 騷動

第一四章 幕末期の動き

第一節 平田派国学の伊那谷流布 七〇四

- 1 岩雲花香 七〇五
 2 松沢義章 七〇五
 3 岩崎長世 七〇五
 4 本村における平田篤胤門人姓名録 七〇六

第一五章 木地屋

- 第一節 木地屋の入山 七二二
 1 木地屋の由緒 七二三
 2 木地屋の分布 七二四
 3 村との契約 七二六
 4 木地屋の生活 七二八
 5 木地屋の墓 七三三

第二節 阿島傘と木地屋

- 1 阿島傘 六四八
 2 木地屋 六四九

第二節 近藤至邦の討幕運動 七〇九

- 第三節 垣本式部の来村とその活動 七一一
 第四節 伊那谷歌道の盛行と遠山長嶺 七一三
 第五節 水戸浪士の通過 七一七

七二二

第五編 社寺・信仰

七三五

第一章 社寺

七三七

第一節 神社

七三七

1 神社及び神道

七三七

2 喬木村の神社

七四〇

八幡社(七四〇)

七四〇

明神諏訪社(七四三)

七四三

水天宮(七四五)

七四五

諸原社(七四九)

七四九

机山社(七五二)

七五二

富田諏訪社(七五三)

七五三

宇治社(七五五)

七五五

大宮諏訪社(七五六)

七五六

平和宮(七六〇)

七六〇

第二節 寺院

七六一

1 寺院・仏教

七六一

2 喬木村の寺院

七六一

- 3 喬木村の堂・庵等
- (1) 安養寺(七六一)
(2) 澄靜寺(七七三)
(3) 真淨寺(七七七)
(4) 医泉寺(七八三)
(5) 法運寺(七八七)
(6) 永泉寺(七八九)
- 七九一

- 4 村の修驗宗
- (1) 火淨堂(七九一)
(2) 西方山無量庵(七九三)
(3) 大和知藥師堂(七九三)
(4) 西院庵(七九四)
(5) 臨泉庵觀世音(七九四)
(6) 寿山庵(七九五)
- 七九七

- (7) 智光山梅春庵(七九六)
(8) 阿島町觀世音堂(七九六)

- (9) 伊久間觀世音堂(七九六)
(10) 大雲寺藥師堂(七九七)

- (11) 清珠院(七九八)
(12) 養壽院(七九九)

- (13) 真願院(七九九)
(14) 法心院(七九九)

- (15) 長壽院(八〇〇)

八〇〇

第二章 諸信仰

第一節 キリスト教	八〇二
第二節 宗教諸派	八〇六
1 天理教・大社教	八〇六
2 靈友会	八〇七
3 創価学会	八〇七
4 立正佼成会	八〇八
第三節 講及講社	八〇八
1 講及講社の概観	八〇八
2 喬木村のおもな講社	八〇九
第四節 民間信仰と村の石神仏	八一一
1 庚申	八一一
2 道祖神	八一五
3 觀音信仰	八一六
(1) 順札	八一七
(2) 伊奈川東秩父三拾四カ所順札歌	八一八
(3) 山道觀音	八二一
(4) 馬頭觀音	八二三
第五節 阿島祭	八三八
1 江戸時代の祭の状況	八三九
2 御祭礼諸役行列	八四〇
3 享保二一年祭札	八四五
4 明治以後の祭の状況	八四五
名号碑・念佛供養塔・経塚	八二七
秋葉山信仰	八三〇
金毘羅信仰	八三四
蚕玉神	八三四
二十三夜信仰その他	八三五
その他特殊な信仰像	八三七
5	八
6 秋葉山信仰	八二七
7 金毘羅信仰	八三〇
8 蚕玉神	八三四
9 二十三夜信仰その他	八三五
10 その他特殊な信仰像	八三七

第六編 教育・文化

第一章 村の教育

八五一

八五三

第一節 学制発布前の教育	八五三
1 庶民教育の發祥	八五三
2 寺小屋教育	八五三
第二節 学校創立	八五八
1 学制頒布	八五八
2 学校創立	八五九
(1) 嚥々学校(八糸)	八五九
(2) 富田学校(八糸)	八五九
(3) 興譲学校(八糸)	八五九
(4) 洗心学校(八糸)	八五九
(5) 琢器学校(八糸)	八五九
3 学校発足の頃	八六三
付記 加々須村と福島開巻小校	八六六
第三節 教育行政の変遷と喬木村	八六七
1 五ヶ村合併喬木村の発足と校名変更	八六七
2 小学校令公布、学校統一	八六七
3 小学校令改正公布、教育勅語の発布	八七〇
五校独立小学校の発足	八七一
高等小学校の併設	八七二
授業料の軽減	八七三
学校運営の特色	八七三
御真影の奉迎	八七五
4 小学校令改正、授業料廃止	八七五
5 小学校令改正、義務教育延長、 教育費学区負担廃止	八七六
(1) 小学校の統合問題と第一、第二	八七六
尋常高等小学校の発足	八七七
6 戰時教育体制の進行	八八〇
(1) 戰時下の学校教育	八八一
(2) 疎開学童の受け入れ	八八二

7 戰後の教育改革	八八三
(1) 戰争後の国内の混乱と激動	八八三
(2) 終戦後の学校教育	八八四
(3) 新学制による教育	八八五
8 戰後本村における学校の発足	八八六
(1) 喬木第一・第二小学校の発足	八八六
(2) 喬木中学校の発足、位置の決定問題	八八六
9 喬木第一小学校新築移転と記念事業推進委員会の活動	八八九
10 学校給食	八九二
第四節 小中学校の沿革	八九四
1 小学校沿革表	八九四
2 喬木第一小学校沿革概要	八九六
3 喬木第二小学校沿革概要	九一二
4 喬木中学校の沿革概要	九一〇
第五節 喬木村の諸学校	九一四
1 実業補習学校	九一四
2 青年訓練所・青年学校	九一五
3 長野県組合立竜東農学校	九一七
4 下伊那農業高等学校定時制喬木分校	九二〇

第六節 教育機関	九三一
1 学区取締、学校世話役	九三一
2 学務委員	九三一
3 教育委員会	九三一
第七節 P.T.A.	九三四
1 小学校・中学校P.T.A.	九三四
第八節 社会教育諸団体	九三六
1 公民館	九三六
(1) 公民館の発足	九三六
(2) 喬木村公民館歩みの概要	九三七
2 諸団体	九四一
(1) 青年会	九四一
(2) 喬木村婦人会	九四四
(3) 喬木村若妻会	九四六
正財團立小學對外發展	九四九
八五三	八五三

第二章 喬木村の文化財

九四八

第一節 史蹟・天然記念物……………九四九

(2) ミヤマツチトリモチ……………九六三

1 伊久間原繩文式・土師式住居址群……………九四九

(3) ツチアケビ……………九六四

2 帰牛原・南原遺跡……………九五二

(4) ミヤマトサミズキ……………九六四

3 帰牛原城本屋遺跡……………九五三

(5) ヒカリゴケ……………九六四

4 郭の前方後円墳……………九五六

九六七

5 小川松下城址……………九五八

九六八

6 (1) 位置及び現状……………九五八

九六一

(2) 年代及び城主……………九五八

九六〇

(3) 遺跡・遺物其他参考資料……………九五八

九六一

7 大島の球状花崗岩……………九六一

九六二

8 村内の特異植物……………九六二

九六三

(1) クダサキヤマジノギク……………九六三

九七三

第三章 生活文化

第一節 報道……………九七五

1 新聞……………九七五

2 ラジオ……………九七六

3 テレビ……………九七六

第二節 その他……………九七五

1 幻燈・映画……………九七七

2 舞台・劇場・地狂言等……………九七八

(1) 阿島芝居小屋……………九七九

第二節 有形文化財……………九六八

1 小川医泉寺の日光・月光菩薩……………九六九

九七一

2 阿島安養寺梵鐘……………九六八

九七二

3 小川韓鄉神社板書彩色絵馬……………九七三

九七四

4 四神四獸鏡……………九七三

九七五

第三節 建築物……………九七三

1 富田下の宮の廻り舞台……………九七三

九七五

第四章 文化碑

第一節 喬木村の歌碑・頌徳碑・記念碑：九八二二

第五章 人物誌

九八五

- | | | | |
|----|-----------|----|-----------|
| 1 | 知久頼久(九五) | 2 | 筒井咲野(九五) |
| 3 | 長谷川半七(九六) | 4 | 松島四季造(九六) |
| 5 | 湯沢重眞(九六) | 6 | 長谷川範七(九七) |
| 7 | 市瀬善治(九八) | 8 | 湯沢精司(九八) |
| 9 | 河原棕蔭(九九) | 10 | 沢柳賢宗(九〇) |
| 11 | 木下照一(九一) | 12 | 城下清一(九二) |
| 13 | 長谷川喬村(九三) | 14 | 市瀬源助(九三) |
| 15 | 長谷川石峰(九四) | 16 | 宇佐美珍彦(九四) |
| 17 | 塩尻元次(九五) | 18 | 高登涉(九五) |
| 19 | 吉沢満長(九六) | | |

第六章 村の観光

- | | | |
|---|--------------|------|
| 1 | 天竜小渋水系県立矢筈公園 | 九九七 |
| 2 | 鉱泉小川の湯井机山台地の | |
| 3 | 安養寺毘沙門天と公園の藤 | 一〇〇〇 |